ID：0156

2030

建材実験レポート　2030．4〜

・これをもとに実際に家をくさらせる方法を考えていく
・写真は数日に1回ペースで撮っていくが作業はなるべく毎日行う

現時点での実験結果　2030．10

建材がいかにくさらせるために有効な操作

○セメント系（サイディング、スレートなど）
・PHの低い液体に浸ける
・日光に当てる
・定期的に水分を加える

○木材系
・水に浸ける、日光に当てる、酵素「宮呂」に触れさせる
・上記の2点を同時に行う、どれかが欠けるとくさらない

2031

今日から本格的にくさらせていく！

くさらせるためのルール

・ほとんどの作業はわたしひとりで行う
・コストがかかりすぎるような浪費は必要不可欠でない場合以外は行わない！
・大きな重機は極力使用しない
・リサイクルは行き先が不明瞭なので頼りすぎない

・多少の不便は家族の土なので気にしない！
・死んだら困るので危険すぎることにならないように気を付ける
・最終的には必要最低限の居住スペース以外のすべてを自然に還すことを目標とする！
・30年くらいかけてじっくりくさらせていく！毎日こつこつと！

初心を忘れないために　2029．10

空き家として取り残されてしまった住宅たちは、言ってしまえば地球にとっての負の遺産だ。
わたしがおんなじ様、この家をきっとこれほどに取り残されてしまうだろう。自分の家には最後まで自分自身で責任を取るべきではないか、ただ解体して廃棄物と資源に引き取ってもらうだけでは駄目なのだ。引き取られた廃材がその後どうなるかなんて、わたしたちには本当の意味では見えないのだから。

この家を自然に還したい。数十年で簡単に駆目になることはないよう、一般的な構法を基本として自分自身で責任を取れるこの家を、わたしが死ぬまでの数十年間をかけて、少しずつ自然に還しながら暮らしていきたい。

自然の循環のなかの豊かなフェーズに、“くさる”という過程がある。住宅も、くさらせることで自然に還るんじゃないか、けれど“くさる”と言ってもそれは単に朽ちるという字義に留まるのではなく、きっとわたしという生物の働きによって、この家が分解されながら新しい命の何かを生み出すような、そんなことを“家がくさる”って言えるのではないか。

この家が、いつか自然に還ろう、くさらせながら暮らしていこうと決意をした。

2035

2034

2036

2040

2039

2038

2042

2043

2044

2045

2046

2047

住宅を くさらせた記録

すべての自然界のものはやがて地球に還る。
老いて、命が尽きて、朽ちて、分解されて、そして新たな生命へと生まれ変わる。自然界の生命の循環はそのようにして成り立つ。

では、建築は？　人や動植物が死んでいく中で、建築だけが取り残され続けるのはおかしなことなのではないか？
建築は、自然界のサイクルのなかに、どのように介入できるのだろうか。

これは、住宅を自然に還すことを目的として、
自らの住まうハウスメーカー住宅をくさらせながら暮らした、ひとりの人間の30年間の日々の記録である。

2049

2049.8.

断面図 S=1:30

2051

2051.1

断面図 S=1:30

2053

2053.7

断面図 S=1:30

2055

2055.5

断面図 S=1:30

2057

2057.4

断面図 S=1:30

2057.6

断面図 S=1:30

2059

2059

2060

2060.9.

断面図 S=1:30

2062

面積表		面積表		凡例		階段		縮尺		図面名称	工事名称
建築面積	53.70㎡	▲	ダイライトMS(9.0mm)	非耐力壁のダイライト釘ピッチ@200とする		有効幅 750mm		1/50		1階平面図 2階平面図	武蔵小金井10期
1階床面積	52.88㎡	下…に上	筋違(45×90)片方向			蹴上 219.23mm		設計年月日			
2階床面積	42.96㎡	▭▭	筋違(45×90)メス			踏面 227.25mm		01.07.06			
延べ床面積	95.84㎡	▙	下…に上 ダイライトMS(9.0mm) +筋違(45×90)メス	新熱化	外壁・屋根直下天井	高性能グラスウール 14K 105mm					
				工事	1階床	グラスウール 32K 80mm					